

01. はじめに

この度は当シナリオをお手に取っていただき、ありがとうございます。

こちらはクトゥルフ神話 TRPG(6版) 対応シナリオとなります。

このシナリオは、大正12年を舞台としたシナリオです。サブリ「クトゥルフと帝国」がなくても問題なく遊ぶことができますが、一部のシーンに「自然災害に関連する描写」を含みます。

難易度変更はご自由どうぞ。

また、このシナリオには神話生物および呪文に関する独自解釈が含まれます。ご了承くださいませ。

シナリオ内の記号

□ : 技能ロール

■ : 探索項目

略字一覧

KP : キーパー

PL : プレイヤー

PC : 探索者

RP : ロールプレイ

AF : アーティファクト

基本 : 基本ルールブック

MM : マレウス・モンストロルム

このシナリオ内では、コラムにキーパー向けの補足情報を掲載しています。キーパリングのヒントとして参照してください。

02. シナリオについて

シナリオ形式 : 大正シティ

プレイ人数 : 2~4人

プレイ時間 : 6~8時間

推奨技能 : 〈聞き耳〉〈回避〉

探索者条件 : 「女学生」限定

ときめくあなたへ。

お洒落と秘密と運命は、いつだって乙女のいちばんの武装なのです。

大正時代の銀座の街頭を歩く人々の服装は、男性は和服が33%で洋服は67%、女性は和服が99%、洋服は1%だったという。

これは、そんな時代のなか、特別な裁縫道具を使ってこっそり自分のための洋服を仕立てる、少女たちの話です。

03. シナリオ背景

大正時代の帝都、若い女性の中に「赤い糸の噂」が流れた。噂の内容は、特別な「赤い糸」で繕った服を身に着けると、運命の人と出会えるというものだ。しかしその「赤い糸」の実態は、人知れず発生したアトラック=ナチャの信者たちが生贄の確保を効率的に行なうため作り出されたアーティファクトであった。これは、アトラック=ナチャの糸を紡いで人間の血液と合わせた「生きた糸」であり、この糸を用いて縫製した衣服をたよりに犠牲者を誘拐し、アトラック=ナチャへ捧げるというものである。

探索者たちは友人である NPC「文月 朔子」^{ふみつき さくこ}を通じて不幸にも、信者たちが流通させている『赤い蜘蛛の糸』を入手してしまう。しかし、帝都に紡がれる噂や、同時期に失踪した朔子の母「京子」の持つ秘密の縁を通じて『赤い蜘蛛の糸』の真相に近づいていく。

関東大震災が日本を襲う直前に生きる少女たちは、その手で何を縫い合わせ、どのような結末を仕立てるのだろうか。

[関与する神話生事象]

- ・アトラック=ナチャ (基本 p.204)
- ・アトラック=ナチャの娘 (MMp.15)
- ・キーザ (MMp.157)
- ・イスの偉大なる種族 (基本 p166)
- ・精神的従属 (基本 p.266)
- ・窓の創造 (基本 p.284)

04. KP 向け補足情報

アトラック=ナチャの信者たち

大正時代、帝都を中心に発生し教団を作った。アトラック=ナチャへの生贄や教団の信者を増やすために『赤い蜘蛛の糸』を生み出し、女性を中心に流通させはじめる。シナリオ内ではアトラック=ナチャの住まう南アメリカの洞窟と帝都のあちこちとを《窓の創造》によってつなぎ、犠牲者の誘拐を繰り返している。しかし、シナリオの結びで迎える関東大震災によってほとんどの経路は崩壊し、信者も分断や被災を受け、余儀なく滅ぶこととなる。

アノマリオール博物館

具体的な所在地や歴史を有さない特殊な施設。

CoCWeb アンソロジー企画「ムーサ異装展覧界」参加作品の一部で共通して登場する博物館であり、当シナリオでは「時間や空間を超えて存在する博物館」として取り扱っている。施設は表向き大正時代に沿った内装や展示内容であるが、裏側では現代の技術や物品も取り扱っており、探索者に対して神秘的ともいえる手助けを行なう。

こそあどう 此其彼堂

さまざまな魔術道具や神話的事象を抱える物品を取り扱う古道具屋。取扱い商品の性質上一般にはあまり知られておらず、半ば浅草の都市伝説と化している。

探索者が店主の「浜谷 良良」^{はまや らわ}から AF『結晶の針』^{結晶の針}を授かり、探索の手助けになる場所。「文月 京子」を経由して店主と縁を結ぶことで訪れることができる。

AF『赤い蜘蛛の糸』

アトラック=ナチャの糸を紡いで作った縫製用の紡績糸。一見普通の糸だが、アトラック=ナチャの糸と人間の血液を組み合わせて紡いだ特殊な生きた細胞であり、捕食作用をもつ。衣服の一部として縫われたのちに衣服全体の繊維と一体化していき、最終的に犠牲者を突然拘束して捕らえ、身動きできなくさせる。

犠牲者はその後信者によってアトラック=ナチャへ捧げられ、餌食にされる。犠牲者の一部は「アトラック=ナチャの娘」となり、新たな糸を織り紡ぐための存在となる。

AF 『結晶の針』

キーザの一部を浜谷が縫い針状に加工したもの。微細な破片を加工して作られているため、持ち主へ甚大な影響を与えることはなく、生きた細胞に対し一度のみ組織の結晶化をもたらす。

また、結晶化させた細胞はキーザの能力を微弱ながらも継承し、キーザの使用する呪文のうちのひとつと同等の効果を扱えるようになる。本シナリオでは《精神的従属》が発現する。

AF 『女王の糸車』

アトラック＝ナチャの糸を紡ぐための専用の糸車。素材にはアトラック＝ナチャの古い外殻が用いられており、この糸車によってのみ『赤い蜘蛛の糸』を紡ぐことが可能。素材として必要な部位が非常に希少であるため、量産することはできない。

05. 登場 NPC

文月 朔子 / ふみつき さくこ

STR:12 CON:9 POW:17 DEX:11 APP:10 SIZ:11 INT:13 EDU:10

HP:10 MP:17 db:0 SAN:85 年齢:18 歳

技能:【回避/60%】【応急手当/60%】【聞き耳/50%】【図書館/65%】【芸術(裁縫)/70%】
【薙刀/40%】

探索者の共通の友人であり、高等女学校高等科(※注)に通う少女。

家柄もよく探索者のグループの中では年長者。探索者のことを妹のように可愛がり、あるいはよき友人として大切に接している。新しい流行や噂話を積極的にもちかけては探索者たちへ共有する、グループの中心的人物。

表向きは淑やかな立ち振る舞いをこなすものの、はつらつとして大胆な行動をとる一面も。利発で物怖じしない性格からいまだに婚約者はおらず、本人も将来は職業婦人になりたいと思っている。しかし、家の方針と相反するものであるため、なかなかままならない状態だ。

母「京子」のもとから『赤い蜘蛛の糸』を発見し、入手してしまうが、その後母の失踪の謎を追うことで、探索者とともに糸へ隠された意図を垣間見ることになる。

(注:大正9年から設置された、従来の高等女学校専攻科卒業者が修行できる科のこと)

文月 京子 / ふみつき きょうこ

朔子の母。偶然『赤い蜘蛛の糸』を入手し、最初はせっかくだからと娘の朔子のために『赤い蜘蛛の糸』を用いて着物を織った。しかし、不幸にも『赤い蜘蛛の糸』で織った着物に捕食され、信者に誘拐され行方不明になってしまう。「浜谷 良良」とは幼馴染で想い人であったが、家によって定められた結婚のために、結ばれることはなかった。朔子に対しては、不自由だった自分のぶんまで、時代の流れに乗じて少しでも自由に生きてほしいと願っており、文月家のなかでは数少ない朔子の理解者である。

浜谷 良良 / はまや らわ

STR:10 CON:11 POW:4 DEX:15 APP:9 SIZ:12 INT:22 EDU:20

HP:12 MP:20 db:0 SAN:30

(さまざまな AF や呪文によりステータスの消耗や増強が行なわれている)

呪文:さまざま。KP 裁量で任意の呪文を使用できるものとしてよい。

さまざまな魔術道具や神話的事情を抱える物品を取り扱う古道具屋「此其彼堂^{こそあどう}」の店主。

その正体は「イスの偉大なる種族」による《精神交換》から帰還し、神話的事情の絡む交易世界を渡り歩くようになった人物である。「文月 京子」とは幼馴染で想い人であったが、身分の違いのために、結ばれることはなかった。

本名は「浜谷^{はまや} 良^{りょう}」。現在彼の本名を知っているのは、幼馴染の京子のみであり、他のかつての友人や家族とは縁を切っている。

探索者たちの来訪の際には『結晶の針』を縫い針として加工し、アーティファクト化させて授けることで協力をする。

06. PL 向け事前情報

探索者について

探索者は女学生であり、共通の友人に「文月 朔子^{ふみつき さくこ}」が存在する。

「文月 朔子」は高等女学校高等科(※注)に通う18歳の少女であり、家柄もよい。新しい流行や噂話を積極的にもちかけては探索者たちへ共有する、探索者グループの中心の人物だ。

探索者のことを妹のように可愛がり、あるいはよき友人として大切に接しているだろう。また、物語の舞台は大正12年の8月のおわり頃、帝都(東京/神田)である。

(注:大正9年から設置された、従来の高等女学校専攻科卒業者が修行できる科のこと)

探索者作成ルール

年齢は12～16歳、EDUは10固定とする。

職業技能の取得方法については、以下のいずれかを選択すること。

〈1〉本シナリオオリジナル職業:「女学生(華族)」

[応急手当,聞き耳,図書館,芸術(裁縫/歌唱/料理),言いくるめ,信用,英語,+
その他個人的な関心の技能ひとつ]

〈2〉サプリメント「クトゥルフと帝国」:「女学生」より作成

時代背景について

第一次世界大戦を経て、当時の日本、特に都市の市民生活は大きく変化した。さまざまな娯楽が生活の一部に迎えられるようになり、文化が大きく開けるようになったのもこの時代である。

服装においても、大正末期には洋装化が進みはじめたが、対象は主に男子であった。当時の銀座の街頭を歩く人々の服装は、男性は和服が33%で洋服は67%、女性は和服が99%に対し洋服は1%だったという。当時の女性の洋装といえば、主に女子学生のセーラー服や職業婦人の制服であったが、関東大震災以前の女性の洋装化は遅れており、社会進出をはたす女性も少なかった。

07. プロローグ

夏は生きものであると教えてくれたのは、誰でしょう。

春は訪れ、夏は終わり、秋は過ぎ、冬は越える。

わたしたちより、はるかに悠然と大人になっていく四季折々のなかで、夏だけはいつも新しい顔をして、毎年海の向こうから、やってきます。そうして、きちんとすまし顔のまま、火照ったからだをだんだんと横たえて、ぼつんと、死ぬようにお別れを告げてから、つめたい夜の海の底へさらわれていきます。

夏だけが、いつも、わたしたちに、さようならを知らせてくるのです。

それを、昔のひとたちも、わかっていたのでしょうか。だから、夏は終わるというのでしょうか。それで、誰かがたとえて、夏は生きものであると、言ったのでしょうか。

【潮騒 - しおさい】

潮が満ちてくるときの、波の騒ぎ立つ音。

【月見里 - やまなし】

日本の苗字、地名の一種。

読みの由来は「月が見える里には山が無い」という見晴らしのよい情景を表す言葉から。

ムーサ異装展覧界参加作品

「潮騒に月見里」

これは、そんな、終わりかけの夏に生きたわたしたちと、特別な裁縫道具のおはなしです。

08. 導入

時は大正十二年の八月の終わり頃、あなたたちは熟れきった果実のしなびるような気がはためく帝都で、いつもと変わらない日々を過ごしていた。頭の芯までぼおっと茹だりそうな……と表現するにはやや過ぎた頃合い、それでもつい先日まではアブラゼミが情熱的だった、そんな、しばみかけの夏の季節。あなたたちは、友人「文月 朔子」に誘われて、この日、彼女の邸宅へと向かう予定があった。

文月朔子はあなたたちに共通の友人で、あなたたちの通う高等女学校を卒業してからも、つい最近につくられた「高等科」へと進んだ少女だ。新しい流行や噂話を積極的にもちかけたり、雑誌の恋愛小説と一緒にどきどきしながら読んだり、ちょっとした相談事やお菓子や布の端切れやらを分け合ったりしてきた。

そんな瑞々しい彼女のもとへ向かうあなたたちの心は、水浴びのようにきらめいているかもしれない。

手土産の用意

PL 情報

文月朔子の家へ向かう前に、好きな手土産をひとつ用意することができます。探索者全員で相談して背伸びしたものを用意してもいいですし、それぞれ秘密に用意してわくわくしても構いません。

ちなみに、大正時代の都市部では生活文化の洋風化が急速に進んでいました。たとえばお菓子で言えば、ゼリーやクッキー、パバロアといったものがハイカラなものとして受け入れられ、水菓子(フルーツ)も華族をはじめとする裕福な人々によって、より身近なものとして楽しまれていました。とはいえ、それはあくまでも当時の最先端のお話。多くの人に馴染みがあったのは、お団子やおまんじゅうといった和菓子です。

文月邸

門前の呼び鈴を鳴らせば、しばらくして小間使いがあなたたちを迎え入れる。文月家の邸宅は小綺麗に整えられており、百日紅や桔梗の花が品よく植わっていた。庭の植物は、どれも夏のじんわりとほどける風を受けて照りかえっている。

玄関をくぐれば、陽射しが遮られるぶん、すうと肌や髪がぬるくなることだろう。

邸内では、あなたたちが来るのを心待ちにしていたのであろう、顔をぱっとほころばせた文月朔子がいた。

「ようこそ、いらっしゃい！ 暑かったでしょう。どうぞ、こちらへいらっしゃいな」

文月朔子の出迎え

手土産を渡す

「まあ、こんなに素敵なものをありがとう！ ちょうど合いそうなお茶をこの前いただいたのよ。せっかくだからそちらと一緒にいただきましょう」

お茶会について

「今日はお父様もお母様もお出かけをしているの。だから、好きなだけおしゃべりができるわ」

「夏休みももうすぐ終わるけれど、学校が始まる前に一度集まっておしゃべりがしたかったの」

探索者が手土産を渡すととても喜び、お菓子であれば早速お茶請けにと小間使いに準備させる。洋菓子であれば紅茶、和菓子であれば冷たい緑茶などを用意していることにする。

朔子はお茶会を楽しみながら、本を読んだりお喋りをしたり、ちょっとした庭遊びへ出たりして探索者たちとの時間を楽しもうとする。

帝都のうわさ話

空には夏独特の深くくすんだ濃い青色に、ぶっくりとした綿菓子を千切ったような雲がちらちらと浮かんでいる。抜けるような空気を存分に浴びる午後を楽しむなかで、朔子は楽しそうに頬杖をついた。

「ああ、やっぱりみんなと遊ぶのが、一番たのしい。家の中では息抜きもできなくて、とっても窮屈だったのよ。本を読んでも、刺繍をしても、誰ともおしゃべりできないし……」

「みんなは夏休みの間、何か面白いことはあった？」

〈聞き耳〉〈図書館〉〈知識〉のいずれか

それぞれの夏休みを過ごしていた思い出のなかで、あなたは噂話であったり、発売されたばかりの雑誌であったり、何かしらの見聞で、最近帝都でまことしやかにささやかれているおまじないについて思い出す。

それは「赤い糸」というものだ。

最近、帝都では「女性の間だけで秘密にやり取りされている特別な赤い糸があり、その糸で繕った服を着ていると、運命の人に出会うことができる」というおまじないが流行っているらしい。

このおまじないの「赤い糸」は目に見える本物の糸らしいのだが、肝心の入手方法についてはとたんに噂があやふやになり、「縁結びの神様が人間に化けて女性へ配っている」とか「糸を分けてもらってから空の糸巻と一緒に置いて眠りにつくと、翌朝には赤い糸が糸巻たっぷりに巻かれている」とか、はっきりしないものばかりなのだ。

「赤い糸」の噂について探索者全員が判定に失敗した場合は朔子から教えるといだろう。この噂はアトラック＝ナチャの信者たちが広めているものだ。信者が直接糸を配ったり、『赤い蜘蛛の糸』が夜の間に縫製に必要なぶんだけ伸びたりして、女性の間でひそかに話題になっている。

「赤い糸」の話題

「とってもロマンチックなおまじないね。素敵！」

「運命の人と会えて、結ばれることができたなら……それって、とっても羨ましいわ。お姫様だってそう簡単に手に入らない、とっておきのおまじないみたい」

朔子は少しうっとりしながら、あなたたちと夢のような青く甘い恋愛話に花を咲かせることだろう。

「そういえば、……お母様が、最近熱心に繕いものをしていたわ。もしかして……？」

21. クレジット・注意書き

本シナリオの無断転載および複製、二次配布、インターネット上へのアップロードを禁止します。

シナリオを元にした派生物(リプレイ、小説、イラスト等)はシナリオのネタバレに配慮し、皆様の快いTRPGプレイングにご協力をお願い致します。

本シナリオを使用したことで発生した問題について、作者は一切の責任を負いません。ご了承ください。

本シナリオの内容はフィクションであり、実在する人物、団体、事件等は一切関係ありません。

[制作]

七篠 K

[Special thanks]

ムーサ異装展覧会参加作品より

(敬称略・順不同)

『Utopium に死す』

しらぬま彼方 | <https://twitter.com/kyokyork>

『爛爛』

つきのわむく | <https://twitter.com/tukimeguri>

『Stigma ノ狂騒』

ヘディック | <https://twitter.com/hedhiku11>

『然らば永劫、見よ美し』

かあこ | <https://twitter.com/nisekaako>

『STROBE』

茶々丸 | <https://twitter.com/matumarul232>

『NPC ムーサ』

島野おにく | https://twitter.com/Ma_trpg_me

本作は、「株式会社アークライト」及び「株式会社 KADOKAWA」が権利を有する『クトゥルフ神話 TRPG』の二次創作物です。

Call of Cthulhu is copyright (C)1981, 2015, 2019 by Chaosium Inc. ;all rights reserved.

Arranged by Arclight Inc.

Call of Cthulhu is a registered trademark of Chaosium Inc.

PUBLISHED BY KADOKAWA CORPORATION

SPLL : E119628